

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2025.4

遠隔研修を知っていますか？
国立国会図書館の研修を、いつでも、どこでも

令和6年度企画展示「ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界」
関連講演会

「絵巻鑑賞のイロハ」



国立国会図書館 月報

NO. 768
APRIL 2025

CONTENTS

- 1 『教草』
— 明治初期の物産技術を記録する木版画 —
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 6 遠隔研修を知っていますか？
国立国会図書館の研修を、いつでも、どこでも
- 17 令和6年度企画展示「ひろげて、まいて、
あらわれる 絵巻の世界」関連講演会
「絵巻鑑賞のイロハ」

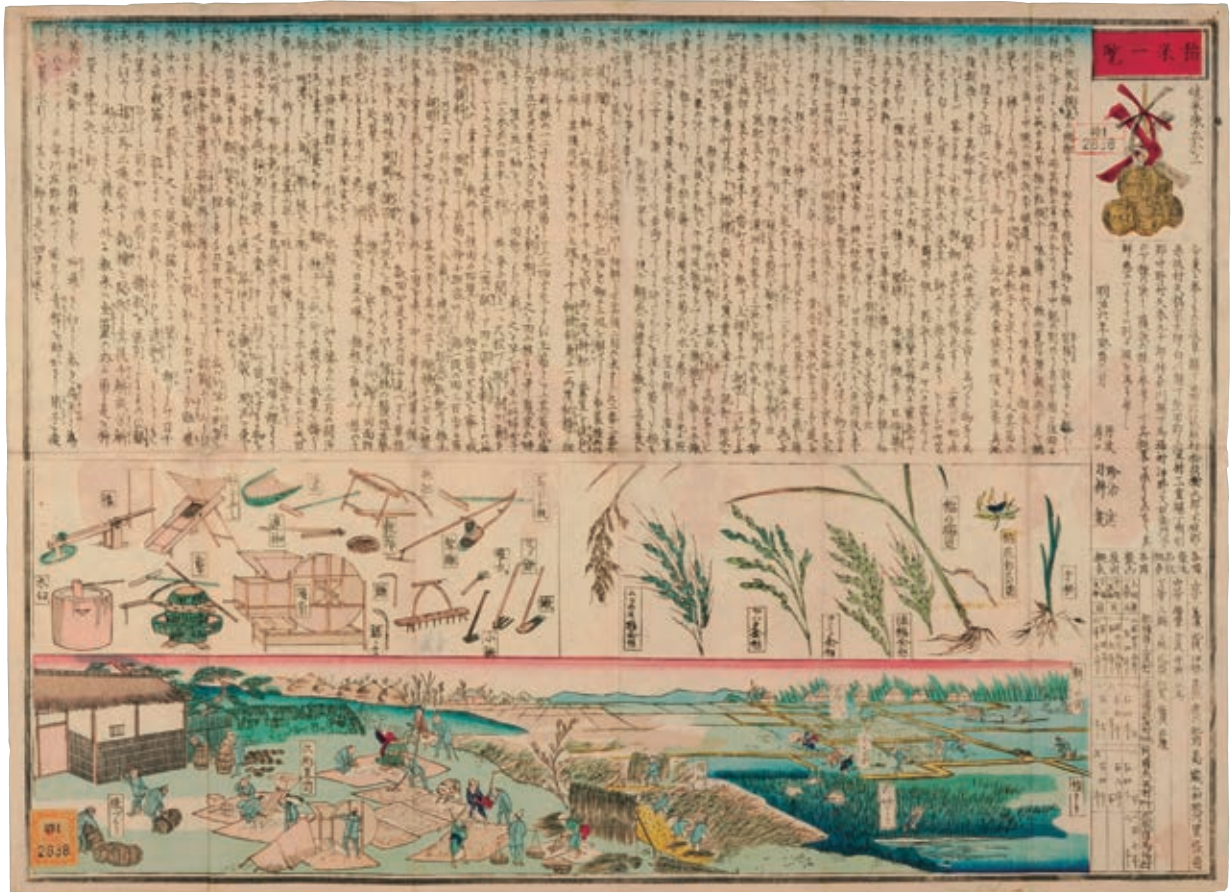
- 5 館内スコープ
研修係のひそかな楽しみ
- 16 本屋にない本
『東京国立博物館の模写・模造 草創期の
展示と研究 創立一五〇年記念特集』
- 27 NDL TOPICS



表紙：尾竹竹坡「端艇競漕」
『世事画報』第2巻第8号
温古堂 1899.4 26cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1544987/1/6>

『教草』^{おしえぐさ} — 明治初期の物産技術を記録する木版画 —

戸鹿野陽子



「稲米一覽」初版

教草

博覧会事務局, 1872-1874 30枚; 37×50cm
(折りたたみ19×9cm) <特1-2838>

明治6（1873）年に開催されたウィーン万国博覧会は、明治政府が初めて参加した国際博覧会であった。明治5（1872）年には太政官正院に博覧会事務局が設置され、博覧会への出展に向けた物品収集が始まる。各府県に対しても展示品となる産物及びその調書を提出するよう指示が行われた。こうした日本各地の産物情報の収集は、博覧会出品物の選定だけでなく、文部省博物館の収藏品収集や国内産物の調査・啓蒙事業も兼ねており、その成果の一つが今回紹介する『教草』である。

『教草』は、明治5（1872）年から明治9（1876）年にかけて刊行された一枚摺りの木版画で、諸産物の製法について図画を加えて平易に解説したものである。再刻版の書袋には「明治六年 澳国博覧会出品の際（かみかくろ）に乗じ 各種職業の教草を編成せしめ」とあり、^①前述の博覧会出品物の選定のために収集した物産情報をもとに編纂していることが分かる。執筆者・画家は木版画ごとに異なっており、丹波修治・安岡百樹・南部陳ら十数名が執筆者として、服部雪斎・溝口月耕・中嶋仰山ら7名が画家として挙げられる。本草学関係の学者や画家であったと考えられる。本草学各木版画では、特定の産物を取り上げ、そ



「葛わらひかたくり製粉一覽」初版の図
葛・ワラビ・カタクリについて、根の縮図
と製粉の工程をそれぞれ描いている。



「澱粉一覽上」(右)と「澱粉一覽下」(左)

澱粉の種類や製法について述べ、海外の澱粉の原料としてタピオカとサゴベイにも触れる。また、上下に分かれ、澱粉になる草根42種を図で表している。画家は、博物画家として著名な服部雪斎。

の産地や品種、生産過程などを順序立てて解説する。紙面の半分程は、解説に対応した図や絵に割かれている。例えば、「稲米一覽」では、はじめに稲には適した土地や生育の早さからいくつかの種類があることを述べ、種まきから田植え・稲刈り・精米・保存までの工程を行うべき時期を示しながら説明し、最後に参考にした産地を示している。図では、本文で触れた稲の種類、稲作の工程、道具が描かれており、内容の理解が深まるようになっていく。

稲米・砂糖・養蚕・藍・製紙・蠟・蒔絵・煙草など、食料・繊維・工芸に関連した産物を中心に、『教草』は全30枚ある。明治5(1872)年6月に刊行された「藍一覽」を皮切りに、明治7(1874)年まで次々に刊行が行われた。しかし、明治8(1875)年7月に内務省で火災が起こり、24枚の『教草』の版木が消失してしまう。そこで、明治8(1875)年から明治9(1876)年にかけて、火災で失われた部分の再刻が行われた。

当館では、3つの『教草』を所蔵しており、火災で版木が焼失した部分についても「製紙一覽」を除いては初版の所蔵がある。初版と再刻版を比較してみると、内容自体に大きな変更は見られないが、レイアウトや文言、図

東京府書籍館印本



30枚の『教草』で構成されており、火災で版木が焼失した部分についてはすべて再刻版である。「草綿一覽(教草第九)」を除いては、「明治十年図書局交付」と「東京府書籍館」の印が見える。折本の形に製本されている。

『教草』
丹波修治 等著ほか 明5-9 <特67-212>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/12901093>

伊藤文庫本



14枚*の『教草』で構成されており、初版と再刻版が混在している。1点ずつ製本されており、残存する書袋は主に再刻版のもので、初版の本体と再刻版の書袋の組み合わせも存在する。

* 稲米、樟虫、葛粉、青花紙、烟草、蠟、白柿、香蕈、製紙、蜂蜜、べに、澱粉(下)、褐腐、豆腐

『教草』
博覧会事務局 1872-1876 <特7-684>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1911524> (教草一)

伊藤文庫：

本草学者・伊藤圭介が収集し、孫の篤太郎が所蔵していた本草学関係書約2,000冊で、昭和19(1944)年に購入した。

伊藤圭介 (1803-1901)
(出典：「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/233/>))



3つの『教草』

当館には、3つの『教草』が存在する。当館の本草関係コレクションの中核である白井文庫と伊藤文庫に含まれる2つの『教草』と東京府書籍館の蔵書印が見られる『教草』がある。

白井文庫本



「製紙一覽(教草第二十三)」を除き、「鷹狩一覽」を加えた30枚の『教草』で、すべて初版と考えられる。初版が収められている書袋には、鳥や蝶が描かれている。

『教草』
博覧会事務局 1872-1874
<特1-2838>

白井文庫：

植物学者・白井光太郎が所蔵していた本草学関係書約6,000冊で、昭和15(1940)年から昭和17(1942)年にかけて購入した。また、昭和51(1976)年には遺族から日記や自筆稿本類が寄贈された。



白井光太郎 (1863-1932)
(出典：「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/6427/>))

- 『教草 二』博覧会事務局, 明治5
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1911531/1/2>
- その他は次の通り：生糸・樟虫・野蚕・葛布・苧麻・草綿・繊維草木・素麺・葛粉・青花紙・茶・漆・白柿・畳・香蕈・蜜蜂・油・べに・澱粉(上・下)・褐腐・豆腐。
当記事内の産物名の表記については、各木版画の表題の表記から適宜一般的な名称に改めている。木版画の表題の表記も、版により異なる場合がある。
- 『博物局第三年報』(明治11年)では、三十種と記載されている(『東京国立博物館百年史 本編』東京国立博物館, 1973, p.136)。別に記載されている「鷹狩一覽」及び「草木乾腊法」を『教草』に含むこともある。

※引用の旧字は新字に改めた。

画の修正も見られる。再刻版の表題には、新たに「教草第〇」と一から二十四までの番号が記されるようになった。なお、この番号は刊行の順と一致はしない。新たな解説が加えられることもあり、「索麵一覽」の最後にはイタリア名産のマカロニや長野県柏原宿の水蕎麦についての説明が追加されている。マカロニのような海外の産物情報も全体を通じていくつか記されている。

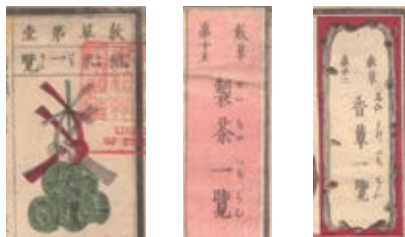
明治初期の物産技術を広く伝えるために編纂された『教草』。その後の急速な近代化の中で本来の目的が果たされた期間は長くはなかったかもしれないが、殖産を期して刊行されたことに大きな意義があったであろう。

比べてみる初版と再刻版

初版と再刻版には差異が見られる。白井文庫本に含まれる初版と東京府書籍館印本に含まれる再刻版を比較した際の差異をいくつか紹介する。

○ 表題

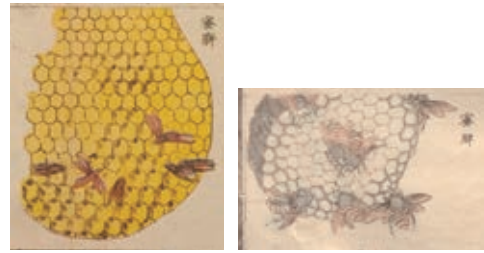
再刻版では、「教草第〇」と番号が振られている。表題はシンプルなものが多く、「製茶一覧」や「香蕈一覧」はデザインが凝っている。再刻版では、「製茶一覧」はシンプルな形に変更されている。



「稲米一覧」、「製茶一覧」、「香蕈一覧」の初版（上）と再刻版（下）

○ 図画

図画が差し替わっているものがある。図画の向きや柄の違いなど、軽微な変更が多い。



「蠟一覧」蜜脾の図の初版（左）と再刻版（右）



「養蚕一覧」蚕に桑葉を与える図の初版（左）と再刻版（右）女性の着物の柄が異なる。

○ レイアウト

初版と再刻版で文章と図の位置を変更しているものがある。下に掲げた「漆一覧」のほか、「蒔絵一覧」、「蠟一覧」も文章と図の位置が変更されている。



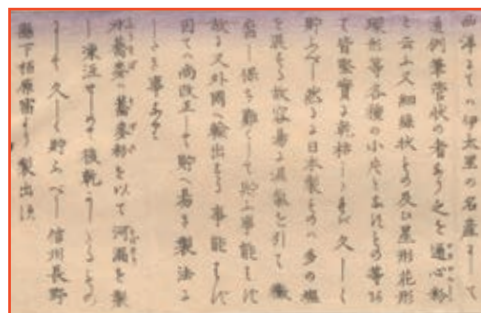
「漆一覧」の初版（左）と再刻版（右）

○ 内容

産物情報の追加や修正がされているものがある。「索麵一覧」の再刻版（初版での表記は「素麵一覧」）では、赤囲みの部分が追加されている（下右図）。西洋には筆管状の「通心粉（マカロニ）」というものがあり、長期保存が可能であると記されている。『西洋料理通』などでマカロニが日本に紹介され始めた時期であり、同書（下左図）では、「索麵（マカロニ）」と漢字が当てられている。



仮名垣魯文編、
暁斎画『西洋料理通』万笈閣、
1872 <209-27>



「索麵一覧」の再刻版

○ 参考文献

『教草』恒和出版、1977 <DC51-91>

『教草 復刻』つかさ書房、1980 <YQ2-614>

林誠「長野県立歴史館蔵本『教草』全三〇点の絵画について」『長野県立歴史館研究紀要』24号、2018.3 <Z8-B400>

阿部大地「ウィーン万国博覧会の展示品収集と「産物大略」」、ペーター・パンツァー、沓澤宣賢、宮田奈奈 編『1873年ウィーン万国博覧会 日壤からみた明治日本の姿』思文閣出版、2022 <D7-M56>

※<>内は当館請求記号

4月1日。フレッシュな新社会人を迎え、通勤電車がいつもより輝いています。私たち研修係にとっては、年度の最初の研修、「新規採用職員研修」が始まる日です。1週間後、研修を終えた新人職員が配属先に無事旅立って行くのを見届けてホッと一安心……する間もなく、次の研修の準備に取り掛かることとなります。

研修係では、新規採用職員研修をはじめ、入館2・3年目の職員を対象とする研修、係長級や課長補佐級、管理職への研修など、それぞれの段階に応じた研修を実施しています。また、ハラスメント防止やメンタルヘルスなど、テーマ別の研修や語学研修も行っています。コロナ禍の時期には感染症をテーマとした研修を実施し、多くの職員が参加しました。

コロナ禍をきっかけに、当館でもオンライン研修が増えました。一方で、対面でのグループディスカッションやワーク等、集合研修ならではの良さもありますので、研修内容に応じて研修のスタイルを使い分けています。

さて、研修の準備は、研修によっては半年前、遅くとも3か月前には始まります。常に複数の研修の準備や事後作業が同時進行していて混乱する

ことも……。そんな時は、例えば先日実施した研修「業務マネジメント」の内容を思い出して頭を整理。そうなんです、開催する研修に立ち会い、運営を行う研修係は、実は学びの機会が多いのが楽しみの一つ。研修生とともに、少しでも自分も成長でき（る気がし）ます。

どの研修も楽しいものですが、私が好きな研修のひとつが語学研修です。図書館で語学研修？と思われるかもしれませんが、当館では、海外機関との業務交流、国際会議への出席、調査業務や外国資料の購入など、語学力が必要となるシーンは多くあります。学ぶ言語も、英語のほか、中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・スウェーデン語などその時々が必要に応じて様々です。語学研修は数か月にわたって行います。参加者が毎週目に見えて上達する様子は、研修担当にとって大きな励みになるのです。（課題に苦勞する姿を見て「がんばれ！」と熱く見守っているのはヒミツ。）

真剣な目で研修に取り組み受講者の姿を見つめることと、「受講して良かった」という感想をいただくことが、研修係にとって最大の「ひそかな楽しみ」なのです。

（人事課 研修係 おはぎ）



準備の整った会場を一人眺めるのもひそかな楽しみ。

研修係の ひそかな楽しみ



遠隔研修を知っていますか？

国立国会図書館の研修を、いつでも、どこでも

国立国会図書館の研修を、いつでも、どこでも受けられます——。そんな話をご存じでしょうか？

国立国会図書館は、図書館員を対象とした研修動画を「遠隔研修」としてYouTubeの国立国会図書館公式チャンネルで公開しています。インターネット環境があれば、自分の都合のよい時間に、職場や自宅、通勤電車の中など、どこからでも受講することができます。登録は不要で、興味のある方ならどなたでも視聴可能です。スキルアップのために研修に参加したいけれど、忙しくてまとまった時間が取れない。立场上、職場を留守にしたり、集合研修に参加したりすることが難しい。そんな悩みを抱えている図書館員の皆さん、是非、「遠隔研修」を活用してみませんか。
(関西館図書館協力課)

国立国会図書館の遠隔研修は、インターネットを通じてより多くの図書館員の方々に研修を受けてもらおうと、平成18（2006）年度に始まりました。当初は専用のシステムで提供していましたが、平成30（2018）年度からはYouTube上で提供するようになり、より簡単に視聴できるようになっています（→p.13「遠隔研修のこれまで、これから」参照）。

令和7（2025）年3月末現在、レファレンス業務に関する研修や国立国会図書館のサービス活用に関する研修、資料保存、デジタル化に関する研修など、37件の講座を提供しています。提供中の講座の一覧は、国立国会図書館ウェブサイト「遠隔研修のページ」に掲載しています。各講座の詳細ページからは、研修動画へのリンクのほか、講義資料や参考サイトへのリンクも張っています。

多くの講座では、国立国会図書館の職員が講師を務めています。研修動画の作成に当たっては、講師がしっかりと内容を練っているのはもちろんのこと、表現や説明に分かりにくい部分がないかなど、担当部署でも十分な確認をしています。国立国会図書館が実施した集合研修を録画したものもあり、過去に対面やライブ配信で研修を受講した方は復習としても受講いただけます。要点をコンパクトにまとめた講座もありますので、業務のちょっとした合間を利用して学ぶことも可能です。テーマによっては、各図書館における職員研修の中で活用いただくこともできるでしょう。

本稿では、現在提供している講座の中からいくつかの講座をピックアップして、ご紹介します。

講座 国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす

◆URL

「国立国会図書館サーチ」の講座
https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/referencetool_ndlsearch.html



「国立国会図書館デジタルコレクション」の講座
https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/referencetool_dl.html



「リサーチ・ナビ」の講座
https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/referencetool_rnavi.html



「レファレンス協同データベース」の講座
https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/referencetool_crd.html



◆研修概要

「国立国会図書館サーチ」「国立国会図書館デジタルコレクション」「リサーチ・ナビ」「レファレンス協同データベース」という4つのオンラインツールについて、図書館でのレファレンス業務に使うという観点から、その特長や活用方法を解説しています。それぞれ独立した講座となっているので、関心のあるツールを選んで学ぶことができます。

講座「国立国会図書館サーチ—国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす—」の研修動画より



講師からのコメント

利用者が必要とする情報や資料を提示する「レファレンス」と言うと、個別の調べものを直接的に手伝うことをイメージしがちかもしれませんが。実は、ツールを整備して利用者や図書館員が自分たちで調べられるようにする、間接的な手伝いも大切です。国立国会図書館が提供しているレファレンスツールは、間接的な手伝いのひとつの手法です。そうしたツールの特徴や使い方をご紹介するこの遠隔研修は、特定の主題の調べ方を学べる研修とはやや性格が異なり、利用者の調べものをより上手に手伝うことをテーマにしています。国立国会図書館のツールを使いこなすための、基礎的な研修と言えるでしょう。理解を深めるためには、録画の特徴を生かし、研修動画を一時停止してそれぞれのツールを実際に操作しながら学んでいただくのがよいかもしれません。皆様の日々のレファレンス業務を支えるお手伝いができれば幸いです。

(利用者サービス部サービス企画課)

講座 経済社会情報の調べ方

◆URL

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/economicsocial.html>



◆研修概要

令和4（2022）年11月にオンラインで実施したレファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方」における2つの講義を録画・編集したものです。1本目の「経済社会情報の調べ方の基礎」では、経済社会情報を調べるためのツール及び基礎的な統計の調べ方について学びます。2本目の「業界・市場動向の調べ方」では、国内の業界・市場動向の調べ方のポイントとツールについて学びます。

※システムリニューアルに伴い、オンラインサービスに関する説明が一部、現状と異なる場合があります。

講座「経済社会情報の調べ方」の研修動画より



講師からのコメント

この研修は、単なるレファレンスツールの羅列ではなく、経済社会分野に関するレファレンスの実務に役立つ内容にすることを目指しました。例えば、冒頭では、レファレンスインタビューの重要性について具体例を交えて説明しています。

「経済社会情報の調べ方の基礎」では、統計類について重点的に説明しました。統計はインターネットで公開されているものも多く、全ての図書館が活用できる情報源です。「総合統計から一次統計へ」という統計の調べ方の基本を身に付けられるように構成しました。

「業界・市場動向の調べ方」では、リサーチ・ナビの「産業情報ガイド」に重点をおいて説明しました。経済社会分野のレファレンスでは、「〇〇市場の動向を知りたい」という質問をよく受けると思います。「産業情報ガイド」では市場情報を調べるための情報源を業種別にまとめています。定期的には内容を確認し、最新の情報を反映させていますので、この研修で使い方を覚えていただき、活用いただけたら幸いです。

(利用者サービス部科学技術・経済課)

講座 人文情報の調べ方（初級編）

◆URL

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/humanities.html>



◆研修概要

「使ってみよう人文リンク集!」「レファレンスにはリサーチ・ナビ」という人文情報を調べるツールを紹介する動画2本と、「人文系の資料の所蔵機関を探す」「ご先祖さまの情報を探す」という解説動画2本を提供しています。いずれの動画も、初めてレファレンスサービスに携わる方を想定して作成したもので、要点を短時間にまとめています。

「人文系の資料の所蔵機関を探す」の講義資料より



「ご先祖さまの情報を探す」の講義資料より



講師からのコメント

国立国会図書館で提供している基本のツール、人文分野でよく聞かれるテーマを取り上げ、動画を見たその日から図書館のカウンターで実践いただけるような研修をご用意しました。

人文リンク集の動画は、まずは人文分野で一推しの基本ツールを知っていただくことを目的としています。人文リンク集は、美術や文学など、人文分野のレファレンスに活用できるデータベース（約800!）を掲載したウェブページです。初めての方にも使いこなしていただけるよう、画面操作も紹介しつつポイントを解説しました。

所蔵機関調査とご先祖調べはよくお尋ねのあるテーマではないかと思います。近隣の図書館を含めて所蔵していない本や、江戸時代のご先祖について聞かれ、戸惑った経験がある方もいらっしゃるかもしれません。どのように進めていけば情報が見つかるのか、主な検索手段が事前にわかっていると調査がスムーズかと考え、わかりやすく基本を解説してみました。

ポイントだけをギュッと詰め込んで、気軽にご覧いただける内容を目指しました。是非ご視聴ください。

（利用者サービス部人文課）

講座 国立国会図書館書誌データの利活用—概要と利用方法—

◆URL

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/bib.html>



◆研修概要

全国書誌データを中心に、国立国会図書館の書誌データの特色、目録や文献リスト作成への活用事例や、利用目的（どのように使いたい）に応じたデータの入手方法を紹介しています。最後の章の「利用方法のまとめ」では、目的と利用方法や、サービス名ごとのデータ取得方法などを、わかりやすく一覧にまとめています。

講座「国立国会図書館書誌データの利活用—概要と利用方法—」の研修動画より

はじめに

国立国会図書館の書誌データを使ってみませんか？

- 誰でも無償で、申請なしで使えます
- 件数が豊富で、目録規則を適用した質のそろったデータです
- 複数の方法やデータ形式で取得できます

目録データ作成に
人手や時間が必要...

目録の取り方に迷う...
・寄贈された古い資料
・自費出版資料 etc.

国立国会図書館の
書誌データで
省力化！

1

講師からのコメント

この研修は、「国立国会図書館サーチ」のリニューアルに合わせて、令和6（2024）年9月時点での最新の内容を盛り込んで作成したものです。特に重点を置いてご紹介しているのは、令和6年1月に提供を開始した「全国書誌データ検索」です。「全国書誌データ検索」は「国立国会図書館サーチ」のサブ画面で、国立国会図書館が収集した国内出版物の書誌データである全国書誌データだけを検索対象としています。研修では、バーコードリーダーを使ってISBNを連続して読み込んで検索する方法や、検索結果をExcelに取り込む方法など実務に役立つ内容も解説しています。また、研修前半では「書誌データの概要と特色」や各種図書館の「利活用事例」をご紹介していますので、これらをご覧いただければ、全国書誌データをもっと身近に感じていただけることでしょう。国立国会図書館が作成した書誌データはどなたでも申請なしに無償でご利用いただけます。この研修を視聴して、様々な場面でご活用ください。

（収集書誌部収集・書誌調整課）

講座 動画で見る資料保存

◆URL

「簡易補修」の講座
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/minorrepair.html>



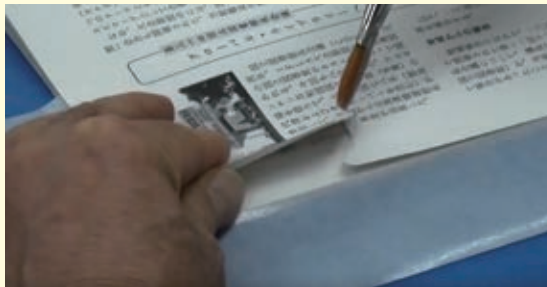
「簡易帙をつくる」の講座
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/simplecontainer.html>



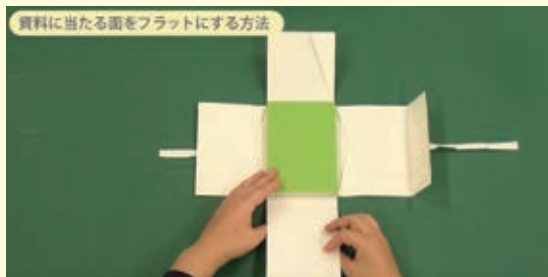
◆研修概要

「動画で見る資料保存」のメインタイトルのもと、2つの講座を提供しています。「簡易補修」では、和紙とでんぷんのりを使った簡易な補修の仕方について紹介しています。「簡易帙をつくる」では、費用をかけずに簡単に作製でき、さまざまな劣化要因から資料を保護する保存容器の作り方について学ぶことができます。いずれの内容も、修復に関して専門的な知識や技術を持たない方が、一般的な資料に対して手当てを行う場合を想定したものです。

講座「簡易補修」の研修動画より



講座「簡易帙をつくる」の研修動画より



講師からのコメント

本講座は、収集書誌部資料保存課で行っている資料保存研修の内容に基づき、現場で役立つ教材を目指して作成しました。

「簡易補修」は、初めて補修に取り組む方にも理解しやすいよう、撮影角度や作業者の手の動きの見せ方を入念に検討しながら作成しました。「簡易帙をつくる」は、一枚の紙から作れる保存容器の作製手順を紹介したものです。資料の状態に応じたアレンジ方法も盛り込み、実践的な内容になっています。いずれも、道具の扱い方やのりの塗り加減など、テキストだけでは伝わりにくい作業の細かな部分にも注目していただけると嬉しいです。

資料保存に関する講座としては、この他にも、火災・地震・水災害等、各種の災害から図書館資料を守る「資料防災」への基本的な取り組み方をまとめた「図書館資料の防災対策」を公開しており、今後も資料保存に関連した新しい動画を作成していく予定です。ご関心をお持ちの方は、是非一度ご覧ください。

(収集書誌部資料保存課)

日本研究のための情報源活用法

国立国会図書館は、海外で日本研究に携わる方々を主な対象として、ウェビナーを実施しています。研究やその支援に必要な基本的な情報源を知り、活用するスキルを身に付けていただくことが目的です。内容は国内の図書館員にとっても有益と考えられるため、ウェビナー実施後に、講義の録画を遠隔研修教材として広く公開しています。日本近現代史、日本語学、近代日本文学など、毎年、取り扱う分野を変えて実施しており、その分野に関して深い知見をお持ちの有識者に講師をお願いしています。

日本研究に有用なツールの使い方にとどまらず、具体的で実践的な研究手法を、わかりやすく学ぶことができます。「このようなツールや情報源を使えば、こんな研究ができるのか」。そんな発見がある研修です。

※講師の肩書は講義時のもの



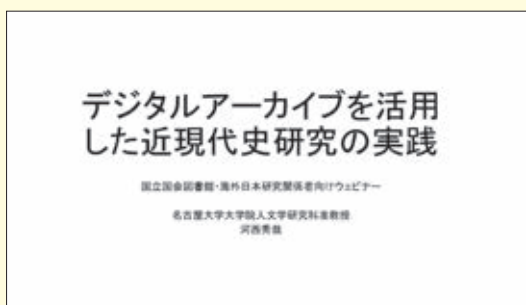
講師：日比嘉高氏
(名古屋大学大学院人文学研究科教授)
「全文テキストデータを利用した近現代日本文学の研究」
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/2023webinar.html>



◀ 「私小説」の概念について説明した箇所のスライド



講師：岡田一祐氏
(北海学園大学人文学部日本文化学科講師)
「日本語研究に役立つ情報資源の効果的な使い方」
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/2022webinar1.html>



講師：河西秀哉氏
(名古屋大学大学院人文学研究科准教授)
「デジタルアーカイブを活用した近現代史研究の実践」
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/2022webinar2.html>



遠隔研修のこれまで、これから

LMSからYoutubeへ

国立国会図書館の遠隔研修事業は、平成18（2006）年度に始まりました。教材第一弾は「資料保存の基本的な考え方」。当時の資料を見ると、公開の2年ほど前からシステム開発とあわせて研修シナリオの検討が行われており、力の入れようがうかがえます。



当初の遠隔研修は、専用の学習管理システム（Learning Management System, LMS）を通じて受講していただく仕組みでした。自学自習型の研修を提供できるようにはなかったものの、登録制で、定員も設けられていたため、誰でも気軽に受講可能というわけではありませんでした。またLMSの利用により、学習の進捗管理やテスト、アンケートを実施できた一方、規格に対応した教材の作成に多大な労力とコストがかかり、提供件数や更新頻度が限られるというデメリットもありました。こうした課題を踏まえ、よりよい提供方法について検討を重ねた結果、YouTubeに移行することになりました。利用者が多いYouTube上で公開することで、より多くの図書館員に受講していただける環境を整えることができたと言えます。

教材の公開も容易になりました。以前は外部に委託していたコンテンツの作成も、現在は動画編集ソフトを利用して職員が行っており、毎年複数の教材をラインナップに追加しています。

コロナ禍で視聴回数増

令和2（2020）年には、遠隔研修の視聴回数が急増しました。同年度の全講座の年間視聴回数の合計は143,374回。前年度（12,588回）の、実に10倍以上を記録しました（数値はいずれもYouTubeの統計より→p.15「数

字で見る国立国会図書館遠隔研修」参照）。

この年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、全国の図書館が休館せざるを得なくなりました。在宅勤務となった図書館員の方も多かったのではないのでしょうか。人と人との対面が制限されたコロナ禍において、多くの図書館員の方々がスキルアップのために遠隔研修を活用して下さったことが、この数字からうかがわれます。

研修効果を高める工夫

近年は、動画配信である遠隔研修とライブ配信型の研修とを組み合わせることによって、研修効果を高める工夫もしています。例えば、令和5年11月にライブ配信で実施したレファレンスサービス研修「科学技術情報の調べ方」では、受講者に対し、このテーマに関する遠隔研修教材の視聴という事前課題を課しました。動画で基礎的な内容について学んだ上で、研修当日は演習を中心とした構成とし、より発展的な内容を学んでいただくという狙いです。受講者からも「事前学習と当日の研修がセットになっており、受け身ではなく能動的に学ぶことができた」と高い評価をいただきました。今後も、こうした形式の研修を開催していく予定です。

もっと見てもらえる研修に

遠隔研修は基礎的な内容が中心ですが、公開中の講座を受講すれば、図書館業務に役立つかなりのことを学べると考えています。ただ、中には動画の長さが1時間を超えるものもあり、まとまった時間が取れない場合、視聴をためらう方もいらっしゃるかもしれません。今後は、隙間時間にも気軽に視聴してもらえるような、要点を簡潔にまとめた短時間の動画も増やしていきたいと考えています。また、「この研修を見てみたい」と思ってもらえるような動画の見せ方やウェブサイトの構成の工夫も必要かもしれません。

もっと見てもらえる遠隔研修を目指し、これからも検討を重ねていきます。

講座一覧 (令和7年3月末現在)

レファレンス業務に関する研修	
(1) 国立国会図書館の提供するレファレンスツール	
国立国会図書館サーチ —国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす—	国立国会図書館サーチ (NDLサーチ) について、主に各図書館でのレファレンスに使うという観点から、その特長や活用方法を解説します。
国立国会図書館デジタルコレクション —国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす—	国立国会図書館デジタルコレクションについて、主に各図書館でのレファレンスに使うという観点から、その特長や活用方法を解説します。
リサーチ・ナビ —国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす—	リサーチ・ナビについて、主に各図書館でのレファレンスに使うという観点から、その特長や活用方法を解説します。
レファレンス協同データベース —国立国会図書館の提供するレファレンスツールを使いこなす—	レファレンス協同データベースについて、主に各図書館でのレファレンスに使うという観点から、その特長や活用方法を解説します。
レファレンス協同データベースの利活用	レファレンス協同データベースの概要や事業に参加する利点等について説明し、その利活用方法を紹介します。
(2) レファレンス主題	
法令資料・情報の特徴と活用法	法令や判例を探すためのツールの内容や特徴と、調べ方を紹介します。
議会資料・情報の特徴と活用法 —インターネット上の国会情報を中心に—	国会の活動の中で発生する資料や情報 (会議録、議案、予算・決算、質問主意書・答弁書) をインターネットで検索する方法を解説します。
官庁資料・情報の特徴と活用法 —インターネット上の行政情報を中心に—	官庁資料・政府刊行物の調査に有用なウェブサイトや、特徴的な資料群 (閣議決定・白書・公的統計・審議会資料) に関するウェブサイトを紹介します。
インターネットで使える国立国会図書館の立法情報	国会会議録検索システムと日本法令索引の基本的な使い方を紹介します。
経済社会情報の調べ方	経済社会情報を調べるための基礎知識について解説します。
近現代政治史料の概要—書簡を中心に	書簡を中心とする近現代政治史料の解説に必要となる基礎知識について解説します。
科学技術情報の調べ方	科学技術分野のレファレンスに関する基礎的な知識や技術を解説します。
科学技術分野専門資料各論 (規格、会議録)	科学技術関係資料のうち、規格と会議録に関する基本的知識と調べ方を解説します。
人文情報の調べ方 (初級編)	人文分野のレファレンスに役立つツールを紹介し、それらの活用方法や調べ方の基本を、初級レベルの内容で解説します。
音楽資料概論—音楽資料とは何か	音楽情報の生成過程や、楽譜やAV資料の利用や検索にあたって必要となる基礎知識について解説します。
図書館員のための音楽知識	基本的な音楽用語、西洋音楽史及び日本音楽史の流れ、代表的な楽曲、楽器、編成の基礎的知識について解説します。
児童文学基礎講座：この本よんだ？ 小学校中高学年に向けて	小学校3～6年生の子どもの特性や、この年齢の子どもにお勧めの本について考える講義です。
児童文学基礎講座：多彩なテーマで幅広い読者をつなぐ絵本の魅力	様々なジャンルの絵本を紹介し、絵本を評価・選書する際に持つべき視点について考える講義です。
児童文学基礎講座：児童文学とは何かというとても難しい問題	児童文学の特殊性と、その定義の難しさについて考える講義です。
児童文学基礎講座：日本の児童文学—「声」の時代、「声」のわかれ	児童文学と、それを子どもに読み聞かせる「声」の関わりを軸として、日本の児童文学の歴史と現在の問題について考える講義です。
児童文学基礎講座：英米を中心とした外国の児童文学—その歴史と概要	外国の児童文学の歴史とジャンルの発展について概観し、地域による特色や、時代・文化による変遷の歴史を、著名な作品を取り上げつつ、論じます。
日本の博士論文の調べ方	日本の博士論文の概要と、国立国会図書館や大学等が所蔵する博士論文の検索、利用方法を紹介します。
国立国会図書館のサービス活用に関する研修 (レファレンス業務以外)	
国立国会図書館書誌データの利活用 —概要と利用方法—	全国書誌データを中心に、国立国会図書館の書誌データの特色、目録や文献リスト作成への活用事例や、利用目的に応じたデータの入手方法を紹介します。
日本目録規則2018年版のポイント	日本目録規則2018年版 (NCR2018) の意義と特徴を、日本目録規則1987年版 (NCR1987) と比較しながら解説します。
国立国会図書館の障害者図書館協力サービス	国立国会図書館が提供する障害者図書館協力サービスの概要を説明し、その活用方法を紹介します。
国立国会図書館デジタルコレクションを日本研究で活用する。(How to make good use of the NDL Digital Collections for Japanese Studies)	国立国会図書館デジタルコレクションの特徴や、海外からの利用・検索方法について解説します。

資料保存、デジタル化に関する研修	
動画で見る資料保存：簡易補修	和紙とでんぷんのりを使った、図書館資料の簡易な補修方法を紹介します。
Conservation of Paper Materials: Minor Repair	「動画で見る資料保存：簡易補修」のスライドを英語化し、英語字幕を付けた動画です。
動画で見る資料保存：簡易帙をつくる	簡単に作成でき、さまざまな劣化要因から資料を保護する保存容器の作り方を紹介します。
図書館資料の防災対策	各種の災害から資料を守る「資料防災」への基本的な取り組み方を、予防、準備、対応、復旧の4つのステップに分けて説明します。
イントロダクション ～資料デジタル化研修にあたって～	資料デジタル化に係る背景、図書館でのデジタル化の概況について解説します。
資料デジタル化の基礎	図書館の資料デジタル化にあたって必要となる基礎知識や、実務上の注意点を解説します。
デジタル化資料の権利処理と利活用	資料のデジタル化やデジタル化資料の提供の際に必要な著作権処理等についての基礎知識を解説します。
デジタル資料の長期保存に関する基礎知識	記録媒体の特性の違いやそれらの保存にあたっての課題、デジタル資料の長期保存の基本的課題と実践事例について解説します。
日本研究のための情報源活用法	
全文テキストデータを利用した近現代日本文学の研究	日本語の全文テキストデータの公開や利用が進む今日において、近現代日本文学の研究がとり得るアプローチの実践例を、各種電子図書館サービスを活用しながら、紹介します。
日本語研究に役立つ情報資源の効果的な使い方	初学者にとって効果的な日本語研究の手法について、実践事例を交えながら紹介します。
デジタルアーカイブを活用した近現代史研究の実践	大正時代の皇太子による外国訪問というエピソードを素材に、訪問に関する経緯や当時の国内の反響等を、デジタル化された史資料から読み解く実践例を紹介します。

※国立国会図書館ウェブサイト「遠隔研修のページ」(<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/index.html>)でもご確認いただけます。

数字で見る 国立国会図書館遠隔研修

講座件数と年間視聴回数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
講座件数	18	21	23	25	30	32
年間視聴回数	13,812	12,588	143,374	45,602	48,795	35,334

※視聴回数は、一つの講座が複数の動画で構成される場合、すべての動画の視聴回数を合計している。

視聴回数が多い講座 (令和5年度末時点)

順位	講座名	総視聴回数
1位	動画で見る資料保存：簡易補修	37,394
2位	児童文学基礎講座：児童文学とは何かというとても難しい問題	35,292
3位	レファレンス協同データベースの利活用	22,259
4位	図書館員のための音楽知識	16,765
5位	科学技術情報の調べ方 (令和4年8月までの講座名は「科学技術分野の調べ方」)	14,589

本屋に

ない

本



東京国立博物館の模写・模造
草創期の展示と研究
創立一五〇年記念特集

東京国立博物館編・刊 2022.9
119p ; 30 cm
<請求記号 K16-M893>

芸術品を模して制作された作品のうち、絵画や書跡などの平面作品は「模写」、彫刻、着物、甲冑といった立体作品は「模造」に分類される。美術館等に展示される作品の中にも模写・模造作品はあるが、それらを鑑賞する際、元の作品ではなく、模写・模造作品自体にどのような背景があるのか、と考えることは少ないように思う。

本書は、東京国立博物館創立150周年を記念して2022年9月〜10月に開催された企画展示「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」の図録である。150年の歴史のうち約半分の期間を占める帝国博物館・帝室博物館期に、横山大観らにより制作された模写・模造作品について、

本書前半では各品の写真とともに簡易な解説が添えられており、後半では歴史的な経緯や制作手法について、総論及び漆芸・絵画・染織等の分野から、計8本の解説がなされている。

これら模写・模造は、明治期に古器旧物を保存する目的で始まった。その後、入手が難しい作品や展示が困難な壁画等も含めて展示品を充実させるため、更には図案や技法研究の一環として、盛んになっていったという。文化財の中には直に見ることが難しいものも多いが、例えば、中尊寺の秘仏を写した「一字金輪坐像」をはじめ、模写・模造作品が制作されることで多くの人が鑑賞できるようになった。また、関東大震災以後は、元の作品の消失に備

えるという役割も注目されたという。

本書に掲載されている模写・模造作品の中には、10年以上の歳月をかけて作り上げられた作品も珍しくない。色褪せ、剥落、欠損の再現は勿論のこと、その再現性の高さや追究ぶりには驚かされる点が多い。例えば、皇室が所蔵する絵巻を写した「春日権現絵巻巻第十五」は紙に薄く縦横の線を描くことで元の作品にある絹地の織を再現している。熊野速玉神社が所蔵する着物を模造した「表着 萌黄地小葵浮線綾文様二階織物」はヨーロッパから導入されたジャガード織により古い織り方を再現している。書跡を写す場合にも、例えば東大寺が所蔵する書物を模写した「東大寺文書」では、ただ筆で文字

を書くのではなく、まず文字の形を縁取り、後から中を塗りつぶす手法が取られている。また、制作に当たっては再現性のみが追究されるのではなく、中には展示のため、元の作品とは異なる彩色を施したもの、元の作品にはない描写を加筆したものなど、新しい作品を作り出した例もある。

本書は、文化財の保存や展示品の充実にとどまらない模写・模造の多様な役割や、元の作品を単に写し取るだけでなく、模写・模造作品独自の魅力を示してくれる。芸術品に対して人々が重ねてきた探求の成果や、写し手の制作観や創造性について知りたい方に、ぜひ本書をおすすめしたい。

(吉岡歩)

令和6年度企画展示「ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界」 関連講演会 「絵巻鑑賞のイロハ」



展示会の様子

国立国会図書館では、令和6年度企画展示「ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界」を開催しました。

【東京会場】

東京本館 展示室（新館1階）：10/1（火）～11/9（土）
※日曜、祝日及び10/16（水・資料整理休館日）を除く
※3期に分けて展示替えを実施

【関西会場】

関西館 大会議室（地下1階）：11/15（金）～11/29（金）
※11/20（水・資料整理休館日）、23（土・祝）、24（日）を除く



同展示の電子版は引き続き公開しています。
本稿とともに楽しみください。

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/gallery/emaki/digital>

これにあわせた関連講演会として、2024年10月26日（土）に、東京国立博物館の土屋貴裕氏を東京本館にお招きし、「絵巻鑑賞のイロハ」と題して絵巻の見方や魅力についてのご講演をいただきました。ここでは講演会の内容をダイジェストでお伝えします。

（講演筆記・文責 利用者サービス部サービス企画課）

はじめに

私は普段、東京国立博物館で学芸員の仕事をしています。今日は企画展示「絵巻の世界」に関連して、大きく三つのパートに分けて、絵巻のお話をしていきたいと思えます。一つ目は、絵巻に関する基礎知識として、絵巻とはどういうものかを見ていき



土屋 貴裕 氏

東京国立博物館 学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室 室長。専門は日本絵画史。東京国立博物館で「国宝 鳥獣戯画のすべて」、「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」などの展覧会を担当。主な編著に『鳥獣戯画研究の最前線』、『東京国立博物館セレクション 絵巻』、『もっと知りたい やまと絵』など。



講演会会場

ます。二つ目に、国宝や重要文化財以外にもたくさんの絵巻があり、それぞれに見どころがあるということをお話しします。特に今回の展示の見どころは模本、つまり絵巻を写したのですが、この模本がとても重要だということを知っていただければと思います。最後に三つ目として、今回の展示資料からいくつかの絵巻を取り上げ、皆さんとその魅力を共有したいと思います。

絵巻に関する基礎知識

絵巻とは—形状と主題—

絵巻をその特徴から定義すると、まず絵が描かれていて、形状が巻子かんすであるということです。巻物であるということは、巻く、広げる、を繰り返しながら鑑賞する、つまり鑑賞に動作が伴います。また、屏風や掛軸と異なり、一度に全ての場面を見ることはできず、以前の場面を見るには、巻き直して戻って見なければなりません。現代のDVDのようにスキップできず、さらに鑑賞や取扱いには手間がかかります。ただ、広げることで次々と場面が展開していく、そのわくわく感も絵巻の特徴と言えます。

本日、展示会場で大きく広げて展示されている絵巻の中に、たわんで曲がっている絵巻（「十二類絵巻」）があります。絵巻は60センチ程度の紙を糊でつないで長くして

いますが、紙をつないでいく際のわずかなずれが積み重なって大きなたわみが生じているのです。絵巻は肩幅程度に広げて見ることが前提ですので、今回の展示で長く広げて初めてたわんでいることが分かったのだと思います。

そして、ただ巻いてあれば絵巻というわけではなく、主題として物語（ストーリー）を伴うものが絵巻です。物語が記されているのが詞書しじょと言われる文字の部分です。詞書があり、それに対応する絵があるという順序で交互に続いていくのが、絵巻の基本的な形です。物語を伴うという点で、図面などを記した「図譜」や、文字が少なく絵が主体である中国の「画卷がくわん」とは若干異なります。描かれる物語には多様なジャンルがありますが、大きく宗教系絵巻と物語系絵巻に分類でき、その他に歌仙絵や記録画などがあります。



『十二類巻物』住吉如慶 写、寛文1(1661)年<ん-186> (十二類絵巻)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2590869>

歴史

絵巻は中国の画卷から発展してきたものです。日本の絵巻と中国の画卷の大きな違いは文字と絵の関係です。画卷では、絵を主体とし、それに簡単な文字が添えられていましたが、日本に伝来したのち、文字の部分が増えていき、平安時代になると、詞書とそれに対応する絵が描かれたものが見られるようになります。文字と絵の関係が洗練され、研ぎ澄まされていった結果、平安時代後期にはいろいろな表現様式が確立し、「源氏物語絵巻」、「信貴山縁起（絵巻）」、「伴大納言絵詞（絵巻）」、「鳥獣戯画」のいわゆる四大絵巻が作られます。

絵巻で描かれる物語	
●宗教系絵巻	●物語系絵巻
・経説絵 お経の内容	・物語絵 さまざまな物語 (特に王朝物語)
・縁起絵 寺社の創建など	・説話絵 教訓を伴う物語
・靈験記絵 神仏のご利益	・合戦絵 武士の合戦
・高僧伝絵 僧侶の事跡	・御伽草紙絵 室町時代以降の短編小説
●その他	
・歌仙絵 歌人の肖像	
・記録画 行事や儀式	

絵巻の表現様式

絵巻独自の表現様式を六つ挙げたいと思います。

一点目は、**文字と絵の配置の在り方**です。詞書とそれに対応する絵の1ユニットを段と言います。これが繰り返されるのが絵巻の基本的な形です。さらに平安時代末期頃からは、絵の中に人物のセリフ、人名、場所、状況説明などの言葉を記した**画中詞**が見られるようになります。鎌倉後期以降は、



『伴大納言繪卷』 書写年不明 < 亥二 -19> (伴大納言絵詞) <https://dl.ndl.go.jp/pid/2574901> (6コマ目~8コマ目)

詞書がなく画中詞のみで構成される絵巻も制作されています。また、室町時代以降の御伽草紙絵巻にも画中詞が多用されています。

画中詞の例。「福富草紙」は詞書を持たず、絵と画中詞(下図の赤丸部分)のみで話を進める点に特徴がある。



『福富草紙』 縦山正禎 写, 文政1(1818)年 < ぬ二 -14> (福富草紙) <https://dl.ndl.go.jp/pid/2542430/1/23>

二点目として、**横長のフレーム**が挙げられます。形状のところでお話したように、紙をつなぐことにより、絵巻は無限に長くすることができま。その横長のフレームの中で、右から左へと物語の時間の流れが表現されます。

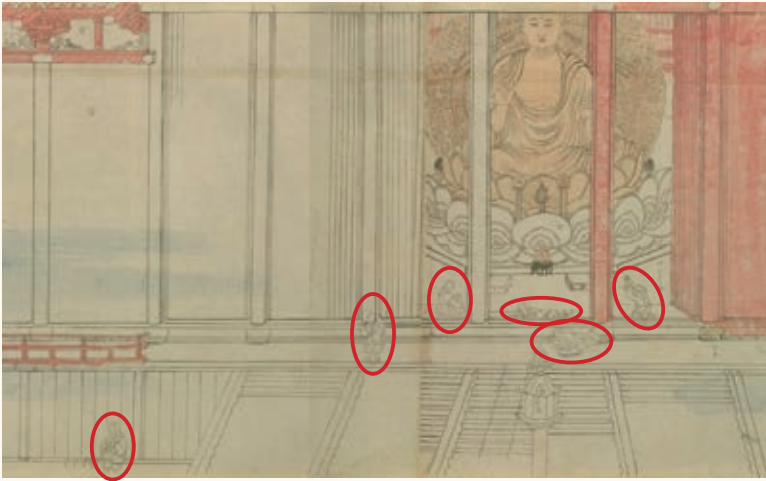
ただ、単に長くしても面白くありません。そこで、三点目として、**霞や樹木で場面転換**する表現方法が出てきます。テレビ番組の途中で入るCMのようなものと言えるかもしれません。ここで言う場面転換には、現世と地獄のような全く違う空間を繋ぐこ

横長のフレーム、霞や樹木による場面転換の例



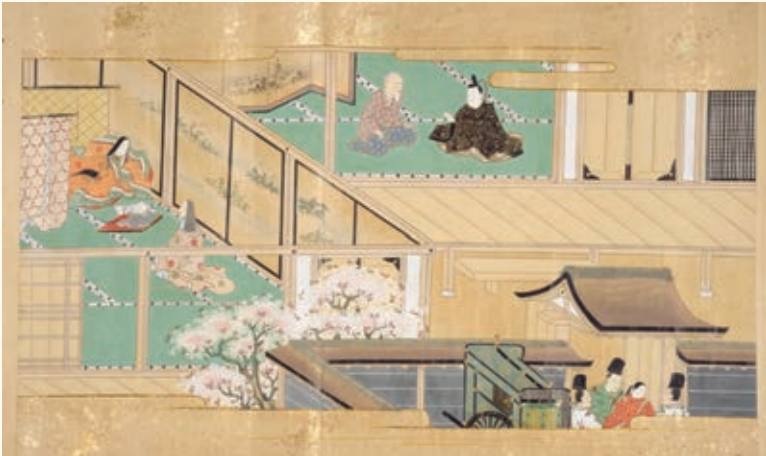
『伴大納言繪卷』 書写年不明 < 亥二 -19> (伴大納言絵詞) <https://dl.ndl.go.jp/pid/2574900> (7コマ目~11コマ目)

異時同図の例



『志貴山縁起』[江戸中期]写<す-50>(信貴山縁起)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2574278> (20コマ目~21コマ目)

吹抜屋台の例



『竹とり物語』[江戸前期]写<本別12-3>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1287148/1/11>

引目鉤鼻の例



『源氏物語絵詞』和田正尚 模写, 明治44(1911)年<ん-98>(源氏物語絵巻)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2590780/1/12>

とも含まれます。

このように、絵巻独自の表現は、掛軸のように一度に全ての画面が目に入るものは異なり、巻いたり広げたりしながら鑑賞するものであるということに基づいて用いられています。

それは、四点目の異時同図も同じです。「信貴山縁起」を例に見ると、尼公が大仏殿で一晩にとつたいろいろな行動を一つの

画面にいくつも描いています。背景の舞台

は変えずに、同じ人物の時間の経過を描いていく方法です。多重露出で撮った写真によって、月や星の動きが分かる様に似ています。

五点目が吹抜屋台です。部屋の中の様子を描くときに屋根を描かず、ドールハウスのような感覚で、屋内をのぞき込むように鑑賞できます。特に王朝物語系の絵巻で使

われ、宗教系絵巻ではそれほど高い頻度では使われません。

最後に六点目として、絵巻だけに見られる表現様式ではありませんが、引目鉤鼻があります。人物の目を細い線で引き、鼻を「く」の字(鉤形)で描く方法です。リアルな顔ではなく、没個性的な顔が使われることで、画中人物に感情移入したりすることが期待されたようです。

絵巻独自の表現様式

1. 詞書と絵の配置、画中詞
2. 横長のフレーム
3. 霞や樹木による場面転換
4. 異時同図
5. 吹抜屋台
6. 引目鉤鼻

絵巻を写す―模本の重要性

国宝や重要文化財のような絵巻が注目されがちですが、注目すべき絵巻はそれだけではありません。模本は写しではありますが、寸分違わぬコピーではなく、手描きで写したものですので、その過程でさまざまな情報が落ちることもあれば、足されることもあります。また、現在失われた原本が写しによって残っている場合や、現在とは異なる過去の所有者など、模本にさまざまな情報が含まれている場合があります。模本一つ一つに制作目的や模写態度の違い、そして由来があり、絵や奥書などからそれらを知ることが模本を見る面白さです。

時代によって異なる「写し」の態度

時代によって写しの「態度」が違っているというのは面白い傾向です。鎌倉から室町時代の模本を見てみると、同じ場面でも原本と構図が違っていて、ある部分をクローズアップし、背景は画面から外れていたりすることがあります。また、同じ作品を写そうとしても、必要な要素は共通でありながら、大きさやモチーフの配置が異なっています。鎌倉から室町時代の人々は比較的自由にそのような写し方をしています。

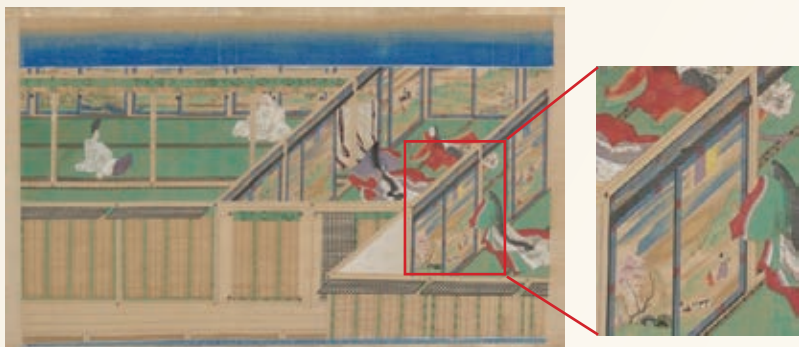


『源氏物語絵巻（模本）』狩野晴川院養信 模写，江戸時代（19世紀）（東京国立博物館所蔵）

<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0064811>

続く江戸時代の模本について、「源氏物語絵巻」を例に見てみると、それ以前の時代のような自由な写し方ではなく、思いのほか正確に写そうとしています。この模本（左図）は狩野晴川院養信（1796～1846）が、松平定信*（1759～1829）の蔵書であった白河文庫の模本を写したもので、模本を再度写したということになります。現代の感覚では原本から写すことが大事だと思えますが、手控えとして図柄と大まかな傾向が分かればよいという場合もありました。狩野晴川院は幕府に仕える御用絵師であったため、絵巻の必

復元模写の例。原本の損傷箇所を復元して描いている。



『春日権現験記絵巻（模本） 卷第三』冷泉為恭他 模写，江戸時代（19世紀）（東京国立博物館所蔵）

<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0049767>

要な場面をすぐに参照できるように写しを作っていたと考えられます。このように、何のために写しが作られたかを考えることが、模本をみる場合には重要なポイントになります。目的によって写しの態度も異なってくるためです。

復元模写と現状模写

さらに、近世と近代で、模本の性格が違う場合もあります。「春日権現験記絵」を

現状模写の例。原本の損傷箇所もそのまま描かれている。



『春日権現験記絵巻（模本） 卷第三』前田氏実 模写，大正14（1925）年（東京国立博物館所蔵）

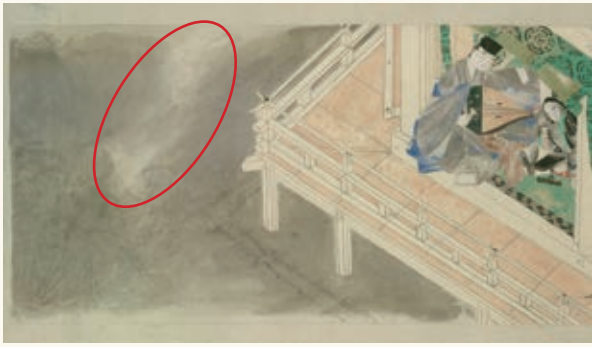
<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0137853>

例に見ると、江戸時代は、原本の損傷箇所を復元して描く「復元模写」がされていきます。これは鑑賞性が高く、きれいなものが見たいという動機によるものです。他方、大正時代や昭和期は、原本で色が落ちていたりところや損傷したところも忠実に写しています。原本の損傷箇所もそのまま描く「現状模写」と言われる手法で、原本の状態の再現性が高く、模写した時点の絵巻の姿を後世に残したいという動機によるもので

*江戸時代後期の白河藩主で幕府の老中を務めた。寛政の改革でよく知られるが、古典への関心が高く、古物や古書画を収集、晩年に古物の図録『集古十種』を編纂したことなどでも知られている。

す。

また、「源氏物語絵巻」の東京国立博物



『源氏物語絵詞』和田正尚 模写，明治 44（1911）年 <ん-98>（源氏物語絵巻）
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2590780/1/12>



『源氏物語絵巻（模本）』狩野晴川院養信 模写，江戸時代（19世紀）（東京国立博物館所蔵）
<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0064785>

館と国立国会図書館の模本の「宿木」の場面（左上図）を見比べると、絵具の落ち具合が似ています。もしかしたら同じような模本から写したのかもしれない。このように見比べることで、模本から模本を写す際のルートが分かることがあります。

模本における彩色の有無

模本には色が付いているものと付いていないものがあります。「年中行事絵巻」（後掲）を例に見ると、同じ色の衣服には一歩しか色が塗られておらず、ほかの部分の色は省略され、色注いろちゅうという彩色の指示が書き込まれています。これは貴族などの観賞用ではなく、絵師が参考にするための粉本ふんぼん、絵手本として作られているわけです。色注の有無で制作の目的をうかがい知ることができます。

このように模本にはいろいろな目的があり、それによって模写の態度も違ってきます。以上のことを踏まえて、国立国会図書館の絵巻コレクションを見てみたいと思います。

国立国会図書館の絵巻コレクションから

今回の展示資料から、特に面白い絵巻を紹介いたします。

義経奥州下り

室町時代後期の制作とされている作品です。正直なところ精緻な描き方ではなく、当時の一級の絵師が描いたとは思えません。しかし、それが残っていて、今見られるということが重要です。室町時代後期はいろいろな人々が経済力を持ち、絵画を享

謡曲「安宅」や歌舞伎「勧進帳」の題材にもなっている場面



『義経奥州下り』[室町後期]写 <WA31-18>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1288409/1/12>

受しようという動きが広がってきた時代でした。特に芸能と関わるような作品がたくさん描かれ、源義経が都落ちする話はその芸能で語られています。そのような芸能と関わる作品を中心とした絵画享受の広がりの中で、こうした作品も作られていると考えられます。

この絵巻の最後は藤原秀衡の館である柳之御所の場面ですが、柳の木を記号的に描く、大変分かりやすい表現です。また、この作品を描き、鑑賞したのは、都の人ではないかもしれません。展示資料には「早雲寺」の印があり、小田原城主北条氏に関する作品である可能性があります。この資

柳之御所（藤原秀衡の館）



『義経奥州下り』[室町後期]写 <WA31-18>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1288409/1/30>

料は箱書にも情報があり、国立国会図書館デジタルコレクションで見ることができま

「早雲寺」の印がある部分



『義経奥州下り』[室町後期]写<WA31-18>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1288409/1/7>

藤袋草子

展示資料で一番興味深かったのがこの作品です。巻物の冒頭にある「住之江文庫」印(ア)は、絵師の住吉家に伝来したものに押しあたるもので、表紙にある「住吉内記」(イ)というのは住吉家の絵師の別称です。奥書には「如慶写」(ウ)とあり、江戸時代前期のやまと絵師で、幕府御用絵師でもあった住吉如慶(1599~1670)が写したと分かります。実は表紙にある「土佐光信筆」(エ)も重要です。土佐光信は室町時代後期に宮廷の絵所預だった、当時の絵師のトップと言える人物です。彼が活動した時代に、小絵と言われる小型の絵巻、天地(縦幅)が通常の絵巻の約半分に当たる15センチほどのものが流行したのですが、光信筆とされる小絵である「硯破草紙」(細見美術館蔵)などと、同じく小絵である「藤袋草子」はかなり似ています。「藤袋草子」は、残存していないとされる土佐光信の作品を模写したものかもしれませんが、そうだとすると、彼の絵師としての業績を知る上で重要な作品かもしれません。

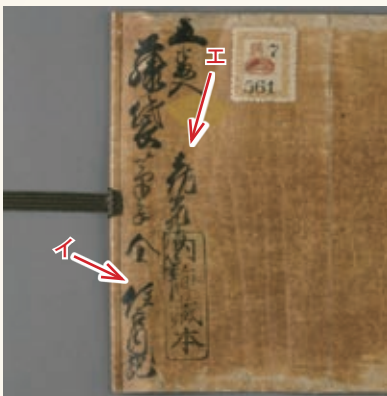
老夫婦のもとからさらってきた娘を慰めるため、猿たちがもてなしに奮闘している場面。猿たちの心情が画中詞として書き込まれている。



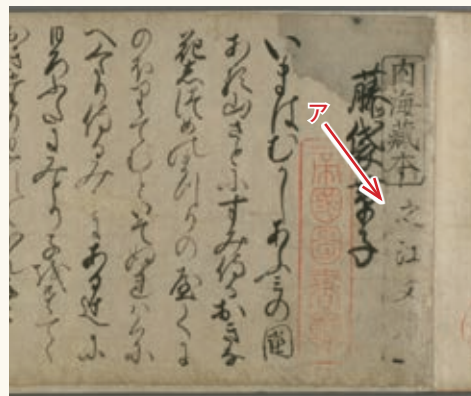
『藤袋草子』住吉如慶写, 慶安2(1649)年<本別7-561>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1286986> (22コマ目~23コマ目)



奥書
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1286986/1/41>



表紙
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1286986/1/2>



巻物の冒頭部分
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1286986/1/4>

年中行事絵巻

原本は失われていますが、平安時代末期に後白河院（1127～1192）の命により制作されたとされています。全60巻を超えたと言われる原本のうち、10数巻が残っていたものを、江戸時代に住吉如慶が天皇の命により写しています。平安時代の様々な儀式、行事を知るための貴重な絵巻であり、模本が数多く作られました。展示資料の一



『年中行事絵巻』[谷文晁]写, [江戸後期]<貴箱-9>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2591107> (23コマ目～25コマ目)



上図の左上部を拡大したところ。「白」や、緑青（ろくしょう）の絵具を指す「六」の文字が書き込まれている。

つ、谷文晁（1763～1841）の写しとされる作品は、一部の彩色にとどまっています。鑑賞用ではなく粉本としての模本だと分かります。

春日権現験記絵

「春日権現験記絵」の原本は皇居三の丸尚蔵館に収蔵され、その模本は春日大社（白河模本）、東京国立博物館、国立国会図書館などが所蔵しています。

展示資料（左）は、住吉派に学んだやまと絵師、板橋貫雄（1809～1872）が明治時代に写したものです。東京国立博物館所蔵の現状模写による模本（右）と同じ場面を比べると、かなりの部分を補っていることが分かります。

右図と比べるとかなり復元されている。



(左)『春日権現験記』板橋貫雄 写 <WA31-13> <https://dl.ndl.go.jp/pid/1287496/1/20>

(右)『春日権現験記絵巻（模本）』前田氏実、永井幾麻 模写（東京国立博物館所蔵） <https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/C0015695>



正確な剥落模写の部分



曖昧な剥落模写の部分

(左)『春日権現験記』板橋貫雄 写 <WA31-13> 第1軸 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1287489/1/6>

(右)『春日権現験記絵』関野永甫ほか4名 写, 天明4[1784]年 <亥二-1> <https://dl.ndl.go.jp/pid/2590960> (16コマ目～17コマ目)

一方、展示資料の別の場面（左）を、国立国会図書館が所蔵するもう一つの模本（右）と比較すると、左の模本では剥落として写している箇所を右の模本では補っているように見えます。どこまで正確に写すのかという、模写の態度の違いでしょう。板橋貫雄の模本は奥書に、白河模本（春日大社蔵）を写したと書かれています。つまり、板橋貫雄の模本は、現存する模本か

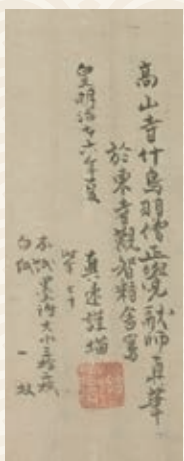
ら模本が作られたという例で、模本どうしの関係を知る上で重要な作品です。

春日大社が所蔵する白河模本は、松平定信以前に半分の写しが行われ、その後、定信が事業を引き継いで残りの部分の写しが行われたようです。その際、写しの方針や方法、元となった本が違ったため、前半は剥落模写、後半は復元模写と分かれていると考えられます。

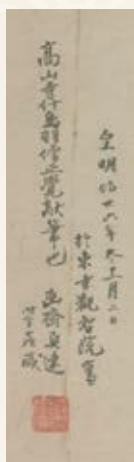
鳥獣戯画

「鳥獣戯画」はさまざまな写しが制作されました。展示資料は明治26（1893）年に安達真速（1823～1899）が写したのですが、京都府所蔵（京都文化博物館保管）の模本『鳥獣人物戯画 甲巻』にも、同じく明治26年に安達真速が写したという奥書があります。同じ時期、同じ人物の模本を京都府と国立国会図書館が所蔵しているということになります。

冒頭で、絵巻には物語があると話されました。これは模本一つ一つの制作背景や由来にも当てはまります。



『鳥羽僧正覚融絵巻』安達真速 写、明治26（1893）年<す-24> 第2軸（乙巻）（鳥獣戯画）
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2574235>（48コマ目～51コマ目）



『鳥羽僧正覚融絵巻』安達真速 写、明治26（1893）年<す-24> 第1軸（丙巻）（鳥獣戯画）
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2574234>（46コマ目～48コマ目）

終わりに

現在展示されている絵巻は、模本とは言え、一つ一つが異なる、言わば「本物」の作品です。そして、これら模本に限らず、絵巻を見る際に注目していただきたいのが作品そのものの大きさです。手のひらサイズの大変小さな小絵がある一方、年中行事絵巻のように大きなものもあります。大きさには、時代背景や、何のために作られたのかといったことが表れています。そして、大きさは本物を見ないと実感できません。国立国会図書館デジタルコレクションで画像を見るだけでなく、ぜひ今回の展示会のような本物を見られる機会をいかしていただけばと思います。

※ <> 内は当館請求記号

国立国会図書館所蔵資料に見る四大絵巻

源氏物語絵巻 帝の子である光源氏と、彼と心を交わした女性たちを巡る物語を綴り、宮中で人気を博した、源氏物語の名場面を描いたもの。原本は平安時代後期の成立。



『源氏物語絵詞』和田正尚 模写, 明治 44 (1911) 年 < 98 >
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2590780> (6 コマ目 ~ 7 コマ目)

信貴山縁起 信貴山ちやうごせんしじ朝護孫子寺 (大和国) の中興開山である命蓮みょうれんの3つの奇跡譚を描いたもの。山崎長者の巻 (飛倉の巻)、延喜加持の巻、尼公の巻から成る。原本は平安時代後期の成立。



『志貴山縁起』[江戸中期] 写 < 50 >
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2574276> (23 コマ目 ~ 25 コマ目)

伴大納言絵詞 貞観 8 (866) 年に起きた、大内裏朝堂院の正門である応天門が放火で焼けた「応天門の変」を題材に描いたもの。左大臣みなもとのまこと源信を犯人と述べていた大納言伴善男ともよしおが真犯人と判明し、流罪となる。原本は平安時代後期の成立。



『伴大納言繪巻』書写年不明 < 亥二 -19 >
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2574902> (13 コマ目 ~ 17 コマ目)

鳥獣戯画 「最も有名な絵巻」のひとつともいわれ、甲乙丙丁の4巻から成る。擬人化された動物が描かれる甲巻が有名だが、乙巻には龍などの空想上の動物が、丙・丁巻には人物も描かれており、「鳥獣人物戯画」とも呼ばれる。原本は平安時代後期から鎌倉時代前期の成立。



『鳥羽僧正覚融絵巻』安達真速 写, 明治 26 (1893) 年 < 24 >
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2574234> (33 コマ目 ~ 35 コマ目)

NDL Topics

オンライン講演「IFLA児童・ヤングアダルト図書館分科会の活動」(動画配信)

国際図書館連盟(IFLA) 児童・ヤングアダルト図書館分科会議長のマリアンヌ・マーテンス氏によるオンライン講演の配信を、国立国会図書館公式YouTubeチャンネルで開始しました。

第1部では児童・ヤングアダルト図書館分科会の活動について、第2部では事前の質問に対して、図書館の児童サービスや児童書に関する世界の状況も踏まえでお話しいたします。

図書館で児童サービスを担当されている方はもちろん、海外の図書館サービスや児童書にご関心のある方もぜひご視聴ください。

○配信日程 令和7年3月18日(火)〜令和8年3月31日(火)

○視聴方法 国際子ども図書館ホームページの左記のページからご視聴ください。

オンライン講演「IFLA児童・ヤングアダルト図書館分科会の活動」(動画配信)

<https://www.kodomo.go.jp/event/event/event2025-03.html>



○問合せ先 国際子ども図書館企画協力課協力係
電話 03(3827)2053(代表)



連続講演「DX時代の図書館と児童ヤングアダルトサービス」改訂(動画配信)

令和3年11月から国立国会図書館公式YouTubeチャンネルで配信している連続講演「DX時代の図書館と児童ヤングアダルトサービス」のうち、「公共図書館の児童サービスのデジタル化の現状と課題」の内容を、コロナ禍以降の状況を反映して改訂し、新たに配信しました。

○演題 公共図書館の児童サービスのデジタル化の現状と課題―ポストコロナ社会における取組―

○講師 鈴木佳苗氏(筑波大学図書館情報メディア系教授、元国立国会図書館客員調査員)

○配信日程 令和7年3月25日(火)から

○視聴方法 国際子ども図書館ホームページの左記のページからご視聴ください。

連続講演「DX時代の図書館と児童ヤングアダルトサービス」

<https://www.kodomo.go.jp/event/special/lecture.html>

コロナ禍を経て公共図書館における児童サービスのデジタル化はどう変化したのでしょうか。ぜひご視聴ください。

○問合せ先 国際子ども図書館企画協力課協力係
電話 03(3827)2053(代表)



NDL Topics

資料のデジタル化に伴う原資料の利用休止について

国立国会図書館では、所蔵資料の保存と利用の両立を図るためデジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。このデジタル化作業のため、次のとおり一部の資料の利用を休止します。

- 対象資料 東京本館所蔵の和図書 約19万7千冊
- 利用休止予定期間 令和7年4月1日から令和8年6月30日まで

○対象資料

- 東京本館所蔵の洋図書（国内刊行） 約2万6千冊
- 利用休止予定期間 令和7年4月1日から令和8年6月30日まで

※ご利用いただけない資料は、国立国会図書館サーチの書誌詳細画面の「国立国会図書館の所蔵」で、「作業中」「デジタル化のため」の表示でお知らせしています。ご利用にあたっては、事前に検索してご確認ください。

※詳細については、国立国会図書館ホームページ「資料の保存・資料デジタル化について」デジタル化作業に伴う原資料の利用休止についてに掲載しています。



ご不便をおかけしますが、国民の文化的資産を後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

新刊案内

レファレンス 890号

保護司制度の現状と課題

NATOの兵力の現行の態勢

オランダ王国憲章概説―オランダ本国とカリブ海地域の関係を中心に―

電子地域通貨の現状と課題―「さるぼほコイン」「ネギー」「めぶくPay」の取組事例から―（現地調査報告）



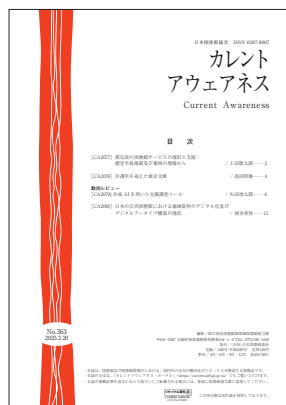
A4 92頁 月刊 1,100円（税込）
発売 日本図書館協会

カレントアウェアネス 363号

震災後の図書館サービスの復旧と支援…能登半島地震及び豪雨の現場から
百週年を迎えた東洋文庫
へ動向レビュー

生成AIを用いた文献調査ツール

日本の公共図書館における地域資料のデジタル化及びデジタルアーカイブ構築の現状



A4 16頁 季刊 440円（税込）
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812

NO.768
APRIL
2025

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Oshiegusa: Woodblock prints illustrating the manufacturing process of products in the early Meiji era
- 06 Do you know our remote training programs?
Receive training from the National Diet Library anytime, anywhere!
- 17 Lecture related to the exhibition “Open, roll, and appear: The world of picture scrolls”
“How to Appreciate Picture Scrolls”
- 05 <Tidbits of information on NDL>
The secret enjoyment of the training section
- 16 <Books not commercially available>
Tokyo kokuritsu hakubutsukan no mosha · mozo = Copies in the Tokyo National Museum collection:
Sosoki no tenji to kenkyu: Soritsu hyakugojunen kinen tokushu
- 27 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和7年4月号 (No.768)

令和7年4月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 川西晶大

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を転載する場合（全文または長文にわたり抜粋する場合、または図版を転載する場合）には、
事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（<https://www.ndl.go.jp/>）>刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 5 . 4

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士